

メッセージボード

2025年12月7日(日曜日)

芸術と科学のハーモニー特別講演会 竹内薫氏講演会

「フェイクニュース時代の科学リテラシー～何が正しいかを見抜くチカラ～」

《アンケートより》

- ・難しい話をとても分かりやすく話していただきありがとうございます。(40代)
- ・非常に分かりやすい説明でした。1つの事実を科学の眼で見る大切さを学んだと思います。(60代)
- ・新しい視点で物事を考えることの大切さを拝見できました。科学的に証明することの大切を感じました。(50代)
- ・正しさを見抜くチカラ。情報あふれる世の中で大変難しいです。とても参考になりました。(70代)
- ・科学の大事さと危険性を改めて実感しました。また科学では解明できないこともまだまだあるのも納得しましたし、そうであるべきだと思いました。(30代)

＜担当者より＞

今回小学5年生でもわかるようにお話ししてほしいとお願いしたところ、具体的な題材を取り上げながら、分かりやすく説明をしてくださいました。90分の講演会の後には直接質問できる時間を設け、その場で答えいただきました。今後も皆様に有意義な講演をお届けできるように努めていきたいと思っています。



2026年2月7日(土曜日)・8日(日曜日)

武豊町民劇団TAKE TO YOU2025年度定期公演

「After Judgement～地獄の閻魔帳～」

《アンケートより》

- ・演技や歌がとても上手でとても感動しました。大道具、小道具、音楽などいろんな所のこだわりを感じられてとても良かったです。(10代)
- ・前回の公演を見てTAKE TO YOUのファンになりました。地元こんな素敵な劇団があるなんてとても嬉しいです。今回の公演とても面白くとても感動しました。劇団員の皆様の表情が明るく輝いていました。またの公演楽しみにしています。(40代)
- ・たくさんの人たちが各々の想いで皆さんを観にきてくれますね。武豊に文化が定着してきたと改めて実感させて頂きました。舞台美術とてもとても良かったです。皆さんも長い時間を共有して創り上げているのが良かったです。一人一人に技術が身に付いていました。これからも頑張って下さい。(50代)
- ・お疲れ様でした。歌も踊って楽しい劇でした。出演者の方々の個性が出ていて、毎回演技が楽しみです。演出も舞台装置や映像を効果的に使って物語がなめらかに進み、鏡のシーンなんてこんなやり方もあるのかと興味深かったです。次回も楽しみにしています。(40代)
- ・ストーリーを含め演者の方との演技に引き込まれ、あっという間の2時間でした。何度か拝見させていますが、回を増やすごとに皆様の演技力も上がっており本当にすごい力を持った劇団だと思います。セット作りも切り替えも観ていて何度練習したのだらうと尊敬の念を抱いております。次回も楽しみにしています。(30代)

＜担当者より＞

川村ミチルさんの2作品目となる今回の物語は、地獄を舞台に親子の葛藤を描きました。

主人公の歩は、心の奥に寂しさを抱えながらも、表向きは明るく頼りがいのある存在として描かれていました。

一方、母の望は過去の憎しみや悲しみに囚われていました。その複雑な感情と親子の関係が、物語をより一層ドラマティックにしていました。

地獄という独特な世界の中で、閻魔大王や阿修羅、帝釈天といった個性豊かなキャラクターが登場し、物語に深みを加えていました。

特に物語の終盤では、阿修羅や帝釈天による試練が歩と望の親子に訪れ、その絆が試される瞬間が描かれていました。

この作品をご覧いただいた皆様が、親子の絆や心の葛藤、そして自分自身の生き方について改めて考えるきっかけとなっていれば幸いです。



2026年3月7日(土曜日)

岡本知高リサイタル

《アンケートより》

- ・ブラボー!最高!感激!私の心がいっぱいになりました。(70代)
- ・あたたかいお人柄が歌声に出ていて、とても素晴らしかったです。本物の歌が聞けて良かったです。(60代)
- ・とても声が良く素晴らしかった。聴くことができて幸せでした。コンサート、構成、トーク全て素晴らしかった。(60代)
- ・来て良かったです。素晴らしい歌声に涙が出ました。美しく、力強い歌を全身で受け、とても幸せです。ありがとうございました。(50代)
- ・お話もとても楽しく良かったです。声量に驚き、感動、そして涙するコンサートでした。また機会があれば聞いてみたいです。(60代)
- ・温かい歌声、子供の頃を思い出し、幸せな時間でした。ありがとうございました。(70代・女性)

＜担当者より＞

チケットは完売で当日を迎えました。澄みきった高音と、言葉を大切に表現でクラシックから親しみのある名曲まで、幅広い楽曲を聞かせてくれました。みなさん、日常を少し離れて、澄みわたる高音が心をほどこいていく時間を過ごされたのではないのでしょうか。会場全体がやさしい余韻に包まれました。

